

浅野誠 旅・お出かけシリーズ5

沖縄各地

2010～2013年

「浅野誠旅シリーズ1 沖縄各地2007-2010」の続編だ。ただ、タイトルを「旅」から「旅・お出かけ」に改めた。旅というほどでもないものを含めたからだ。

沖縄各地はしばしば回ったので、初訪問は少なく、ほとんどが再訪だ。それだけに変化に気づき、再発見もあり、新たな出会いも多い。

2018年10月発行

目次

※ 各項目の右側は、ブログ掲載年月日。掲載は、ブログ掲載年月日順。

古宇利島訪問	2013年2月8日
満41年の結婚記念日に、沖縄国際洋蘭博覧会（於海洋博公園）を見る	2013年2月7日
充実の久米島ゼミ旅行	2013年1月31日～2月4日
30年ぶりの中城城跡訪問	2012年6月18日
へゴ原生林 やんばる憩いの森	2012年6月14日
伊豆味のよへなアジサイ園	2012年6月？日
池間島土産物店 フクロウ スイジガイ 宮古旅3	2012年3月22日
池間島 ギリシャ料理 池間湿原 宮古旅2	2012年3月19日
小川京子さんの作品 サンピラー 宮古旅1	2012年3月16日
夢中にさせる沖縄国際洋蘭博覧会2	2012年2月10日
夢中にさせる沖縄国際洋蘭博覧会と八重岳桜1	2012年2月9日
浜比嘉島 シルミチュー	2012年1月12日
浜比嘉島 アマミチュー	2012年1月11日
藪地洞穴遺跡（ジャネーガマ）2	2012年1月10日
藪地洞穴遺跡（ジャネーガマ）1	2012年1月9日
喜屋武岬	2011年11月27日
くんじゃん徒歩ナビ 国頭村の字ごとのガイドブック	2011年11月7日
リュウキュウハグロトンボ？ 山鷗の窓から	2011年9月17日
山鷗	2011年9月16日
喜多郎ハウス やんばる学びの森23	2011年9月15日
ヨシノボリ やんばる学びの森22	2011年9月14日
カワセミ オオジョロウグモのオス2匹 やんばる学びの森21	2011年9月13日
安波ダムの奥の清流 やんばる学びの森20	2011年9月12日
カヌーツアー 上流へ やんばる学びの森19	2011年9月11日
カヌーツアー 安波ダム やんばる学びの森18	2011年9月10日
ヤンバルクイナの糞 ヤンバルマイマイ やんばる学びの森17	2011年9月9日
ノグチゲラ やんばる学びの森16	2011年9月8日
ヨンナーコース やんばる学びの森15	2011年9月7日
朝焼け やんばる学びの森14	2011年9月6日
ザトウムシ ヤママユ やんばる学びの森13	2011年9月5日

ハナサキガエル やんばる学びの森12	2011年9月4日
ナイト・ツアー やんばる学びの森11	2011年9月2日
夕陽 夕焼け やんばる学びの森10	2011年9月1日
ヤンバルの山々 やんばる学びの森9	2011年8月30日
ひかげへご やんばる学習の森8	2011年8月28日
森の中のウォーキングコース 木のこぶ やんばる学びの森6	2011年8月25日
森のガイドツアー 超専門家の案内 やんばる学びの森2	2011年8月18日
やんばる学びの森一泊二日 やんばる学びの森1	2011年8月17日
チービシ・ナガンヌ2	2011年8月13日
チービシ・ナガンヌ島	2011年8月12日
ミーフガー 久米島物語14	2011年7月23日
熱帯魚の家 久米島13	2011年7月22日
比屋定バンタからの景観 久米島物語12	2011年7月21日
久米島紬の里 ユイマール館 久米島物語11	2011年7月20日
久米島ウミガメ館 久米島物語10	2011年7月19日
トンバーラ 鳥の口周辺 久米島物語9	2011年7月18日
イーフビーチ 畳石 久米島物語8	2011年7月17日
久米島アイランドホテル バーデハウス久米島 久米島物語6	2011年7月15日
久米島博物館 久米島物語5	2011年7月14日
自然保護 蛍生育環境を作る サワフジ 久米島物語4	2011年7月13日
久米島ホテル館 久米島物語3	2011年7月12日
30余年ぶりの久米島訪問 久米島ホテル館 久米島物語1	2011年7月10日
なごらん 森のハーブガーデン5	2011年5月25日
森のたまご屋さん 自然農法 森のハーブガーデン4	2011年5月24日
イジュの花 ひすいかずら 初対面の花 森のハーブガーデン3	2011年5月23日
ハーブ ほおずき ヤンバルの森 森のハーブガーデン2	2011年5月22日
ハーブが森の中にいっぱい 森のハーブガーデン1	2011年5月22日
テンニンカ ハイビスカス2 沖縄かぐや姫3	2011年5月22日
ノボタン つつじ バラ 沖縄かぐや姫2	2011年5月21日
ハイビスカス百花繚乱 沖縄かぐや姫1	2011年5月21日
オオタニワタリ、ゼンマイ、宮古総実高製黒糖・・・宮古物語9	2011年3月16日
市場風景（工事中の中央市場前の露店）・・・宮古物語8	2011年3月15日
池間大橋あたり・・・宮古物語7	2011年3月14日
東平安名岬・・・宮古物語6	2011年3月13日
女性500円男性1000円のゴルフ・・・宮古物語5	2011年3月12日

パイナガマあたり・・・宮古物語4	2011年3月11日
あちこちに自生する香り高く美しい花・・・宮古物語3	2011年3月10日
ワイドー市場・・・宮古物語2	2011年3月10日
「ゆい」小川京子さん、宮古で新スタート・・・宮古物語1	2011年3月9日
チラー小のユシドウフそば	2011年2月9日
糸満観光農園イルミネーション2	2010年12月28日
糸満観光農園イルミネーション1	2010年12月28日
最近完成の識名トンネル…那覇が近くなった	2010年11月26日
沖縄各地———ブログ記事の振り返り・再発見17	2010年10月14日

古宇利島訪問 2013年2月8日

2月5日洋蘭博覧会の後、古宇利島訪問。恵美子が以前からいきたがっていた島だ。

私は、4年余り前に訪問した。

右写真は、古宇利島から屋我地島方向を写す。

今回は、ワルミ橋を始めて渡る。羽地内海が美しい。中左写真



古宇利島では、北側の砂浜で、しばし滞在。ここからは本島北部。伊平屋伊是名が良く見える。与論島も見えらる。中右写真は、本島北部方向だ。

帰りは、古宇利の人と名護で会う。古宇利は、沖縄の神の世界では重要な島のような。



満41年の結婚記念日に、沖縄国際洋蘭博覧会 (於海洋博公園) を見る 2013年2月7日

2月5日は、私たちの結婚記念日。折から開催されているランの博覧会に行く。昨年もおかけて、美しさに圧倒される。

今年は、昨年以上だ。余りにももの美しさ・多さに圧倒されて、



満腹状態だ。消化しきれないのが率直なところだ。数十枚の美しい写真も撮った。

ディスプレイを最後に見たが、これが昨年以上の豪華さだ。

国内外で有名になったのか、県外からの観光客が大変多いというのが今年の印象だ。

一輪一輪が美しいが、それが集まると、豪華有り余るという感じだ。

帰りに、沖縄在来のナゴランとフウランの苗を買った。木に着生させるつもりだ。着生という言葉も初めて知った。

充実の久米島ゼミ旅行

2013年1月31日～2月4日

26～27日、一泊二日で沖縄大学「専門演習」ゼミ生7名と久米島に出かける。1名が体調の都合で参加できなかったのは残念。

朝7時集合に全員が出そろった。前夜興奮で眠れなかったメンバーがいたが、なんだか中学高校の修学旅行のようだ。久しぶりに飛行機に乗るメンバーも。全員が久米島初訪問。満席の小さな飛行機は、20分ほ





どで久米島到着。短時間なのに爆睡するメンバーもいた。

到着後、ホテルチェックインまでは、久米島巡り。2台のレンタカーに分乗。シーズンオフのためか、レンタカー・ホテル・飛行機全部合わせて1万5000円という格安のパック代。



まず、久米島の旧家、上江洲家訪問。

続いて、近くのだるま山で花見。26日は久米島の桜祭り。

次は、受講生たちが以前から行きたかったという「おぼけ坂」。上り坂に見えるのに、実は下り坂。道端に置かれているホイールを置くと、逆走しているように見える。

次は比屋定バンタで絶景を見る

どこでも、みんな元気良く明るくエンジョイ。静かな久米島に学生たちの大きな音楽が流れる雰囲気だ。比屋定バンタで絶景を見た後、宇江城城址にのぼり、うみがめ館でうみがめとともに記念撮影





昼食を取った後、ホテルにチェックイン。

その後、部屋でゼミ時間

まず、学童保育実践記録の相互批評会。前にもブログ記事で紹介したように一人ひとりの優れた記録を、一人一人と私がコメント。時間不足を感じるほど充実しつめこんだ内容。

その後、本島と久米島とで長い間教師をしてこられた大田妙子さんの話をきく。教師の仕事にかかわるたくさんの質問にたっぷりと答えていただく。皆、用意していただいたレジメへの書き込みをたくさんする。

そして、巨大なオキナワウバメガシとイタジイのドングリのプレゼント。

皆、初めて見、驚く。



その後、大田さんを囲んでの夕食会。

たっぷりの中味で、長時間の学習。

飽和気味か。お陰で、夜の懇親会は短時間で終了したようだ。私は、皆より先に就寝したので、よくは分からないが。



翌朝、日の出が見られるかと期待したが、





曇り空。前ページ中右写真はホテル窓から、ハテの浜方向を見る。中右写真



午前中、大田先生か

ら紹介された大岳小学校の学習発表会を見学。全校生徒が100人もいない中、地域からたくさんの方々が見学。写真は、6年生の劇。20年後、そして昔の、自分たちと地域の姿を描く。

最後は全員合唱

次は、久米島博物館

そして、久米島ホテル館へ。30年以上前に私の授業を受講した佐藤文保さんが館長を務める。色々な方々が参観・体験学習をしている。ちょうど福島から子どもたちが来ていた。

熱心な説明は、大変具体的。

最後は五枝の松

超充実の2日間だった。皆満腹のようだ。

30年ぶりの中城城跡訪問

2012年6月18日

先日、本当に久しぶりの訪問。30年以上前は、子ども連れなどで、よく訪問した。世界遺産になったためか、よく整備されて、きれいになっている。当時の面影が残る所、そうでもない所、いろいろだ。

下左写真の裏門は、記憶に残っている。



この広場で、子どもたちと遊ん





だ。1980年ごろ、琉球大学教育学部の新入生歓迎ピクニックで学生たちとも来た。当時のゴールデンウィークは人出が多かった。

城壁の美しさと眺望の良さは、当時と変わらない。写真は西原・佐敷方向を眺めたもの。拝所などの整備が進んでいる。このあたりは初訪問だ。いろいろな場で復元工事が進行中だ。



ヘゴ原生林 やんばる憩いの森

2012年6月14日

今月5日には、開園もない「やんばる憩いの森」にも出かけた。「沖縄唯一のヘゴの原生林」というキャッチフレーズだ。「お菓子のポルシェ」が経営している。

数本とか10数本とかのヘゴはよくに見るが、これだけ群生しているヘゴは初めてだろう。ヘゴ林の中から見る。



一本のヘゴを拡大して見る。





ヘゴ林のなかに千年木林を見つけた。

まだ、開園まもないので、整備したてとか、整備中のものもあるが、数年たつと、落ち着いた雰囲気になるだろう。

それにしても、やんばるは広く、いろいろなスポットがあるものだ。自然環境や景観に負荷をかけるのをできるだけ避けつつ、こうした施設が少しずつできるのは好ましい。

開発したが、採算が取れず、自然や景観に負担を残す例をよく目にするが、こうしたことのないように願いたい。

伊豆味のよへなアジサイ園

2012年6月

5日、台風一過の後、出かけた。メディアで広く知られているので、あいにくの日なのに、結構な人出だ。



ともかく広大な敷地にアジサイがいっぱいだ。

饒平名のおばあさんが長年かけて植え育てたということだが、いまでは家族皆で、さらに人手も借りて作業のようだ。個人でよくぞおやりになっている、という感じだ。



ガクアジサイも結構たくさんある。
 場所は、まさにやんばる山中だ。
 アジサイに混じって、マグニフィカという美しい花が咲いていた。

こうした住民手づくりの観光スポットは、なかなかいい。



池間島土産物店 フクロウ スイジガイ 宮古旅3

2012年3月22日

池間島訪問の最後に、池間大橋の端にある土産物店に立ち寄る。数軒並んでいるが、そのうち一軒は、姪たちがやっている。小さい時から私たちとつながっている姪たちで、かれらがしっかりやっていると嬉しい。



そこで見つけたフクロウ。なかなかいい。一つは、貝殻で作ってある。もう一つはガラス製

スイジガイは、普通6つの角があるが、写真は7本の角がある珍しいものだ。これだと、6つの角がある「水」字に、「おまけ」がつくことになる。



池間島 ギリシャ料理 池間湿原

宮古旅2 2012年3月19日

池間島にあるギリシャ料理店「タソス」で昼食をとった。ペンション「イリオス」を併設している。

海岸沿いにある店の正面には、伊良部島が見える。この日は、あいにく曇り空だったが、晴れた日は、ギリシャの光景そっくりということで、この場が選ばれたようだ。ギリシャ物産の販売もある。

ギリシャ料理は、トロント在住時代のギリシャタウン以来だ。私は魚料理を食べたが、スパイスとオリーブオイルでの味付けはなかなかイケた。



その後、池間湿原を見た。広い。

渡り鳥の楽園といえそうだ。





小川京子さんの作品 サンプラー

宮古旅1 2012年3月16日

13～14日、急用で宮古に行った。所用外の3～4時間に出会ったことを書こう。

小川京子さんの工房「ゆい」を訪問した。制作活動は、以前と変わらずというか、以前

以上に旺盛な印象。

写真は、「龍」だ。

1～2年前、ニューヨークで活動する森さんという方が、狩俣の七光湾に、「サンプラー」（太陽の柱）を設置して話題になったので、見に行った。岩の上に設置してあった。冬至に太陽と月と、不思議な関係になるという位置だそう。自然破壊につながるという批判もあるそうだが。



夢中にさせる沖縄国際洋蘭博覧会2

覧会2 2012年2月10日

係の方が、熱心に説明して下さる。「100万円するものもある」「表彰されるのは、～～～ということができている」「横においてある表示が重要で、交配の出自が書いてある」……

国頭のいくつもの小学校が栽培に取り組んでおり、子どもたち一人一人の作品も展示されていた。

海外からもたくさん出品されている。とくに台湾からが多い。

たくさんのランをディスプレイする作品もある。

出口には、ランが安価で販売されているので、数点購入。我が家は、ランで一杯になって



きた。

悪天候ですいていてよかったと思う。園内バスも無料サービス期間だ。ごいっしょした中高年家族の方と、ちょっとユンタクした。こういう場所にくると、不特定多数のなかでの関係になりやすいが、私はそれが嫌で、いろいろな方に話しかける。その会話が楽しい。老人っぽくなったのかな。

夢中にさせる沖縄国際洋蘭博覧会と八重岳桜1

2012年2月9日

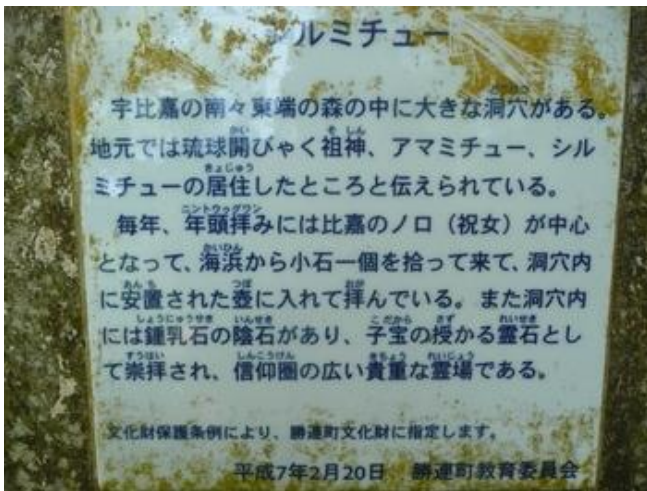




7日、雨→曇り、寒空の天気だったが、その方がすいているだろうと思い、二人で出かけた。

まず八重岳の桜（前ページ左下写真）を見たが、2、3日前の好天とその後の強風でほとんどが散った後だった。それでも、まだ美しさを保つ花もあった。

海洋博公園の熱帯ドリームセンターのラン博覧会は多分2回目の訪問だ。うっとり夢中になった。写真を撮りまくった。100枚を超すだろう。こんなに撮っているのかな、申し訳ない気持ちにさえなった。



浜比嘉島 シルミチュー

2012年1月12日

アマミチューの後、島の奥へと進むと、シルミチューの場に着く。

ここは洞穴で、聖地として長く大切にされてきたところだ。きれいに整備され管理されている。

中には、鍾乳石が多い。入口から覗きながら、祈る形だ。長い階段を上り下りする。

おそらく王府などのかかわりは薄く、地域の人々、あるいはカミンチュの人々によって支えられてきた祈りの場だろう。

入口近くにカフェのようなものもできているが、観光化が進まな



い方がいいと思うが、いかがだろうか。100メートルも離れていないところには「リゾートホテル」があり、驚いた。浜比嘉は観光目的の方を結構見かける場になっているようだ。日曜日のためかもしれないが。

祈りをささげた後、島で食事ということになった。私は、島の魚料理でもいただくと思っていたが、かなり本格的なフランス料理店をいただくことになってびっくり。

ここで、20~40年前の知人の消息を尋ねた。私の20歳代後半から40代前半にかけて思い出深い方で、この島出身だ。最近、故郷に帰られたという噂を風の便りで聞いたので、尋ねた。しかし、今は島ではなくて対岸で仕事をなさっているらしい。再会は、またの機会にしよう。

久しぶりの、何人かでのドライブとなった。比較的世代が近い方々との1日であった。女性同士の話がはずんだようだ。

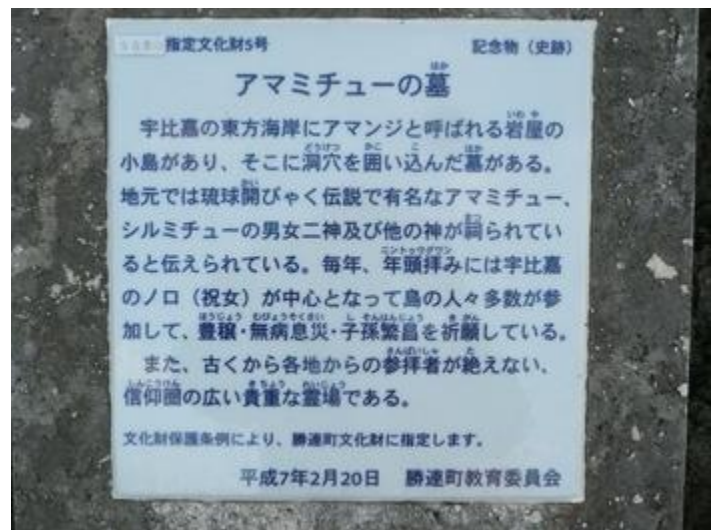
浜比嘉島 アマミチュー

2012年1月11日

8日、藪地島訪問の次に、浜比嘉島のシルミチュー訪問の予定だったが、途中のアマミチューの墓にも立ち寄る。

写真の向こう側左が海中道路 右側が平安座島
海中道路を通るのは、10数年以上ぶりだ。立派な道路になっているし、途中の「道の駅」は、大変なにぎわいだ。40年前、1972年4月に初めてここを通ったころとは、随分な違いだ。すっかり観光スポットになっている。道路は、制限時速50キロもなくなっている。高速道路のような感じ。のろのろの私の車をどんどん追い抜いてもらう。

浜比嘉への橋も初めてわたる。随分立派だ。かつて、橋ができたところではかえって人口減になったとい





う話を聞いたことがある。ここはどうだろうか。この島へは初訪問だ。

アマミチューは、アマミキヨ伝説の一つである。島ではあるが、浜比嘉島から10メートルぐらいの橋で渡れる。

浜比嘉のアマミキヨ・シネリキヨの話は以前から聞いたことがあるので、一度訪問したいとは思っていた。

アマミチューの小島の裏側は、岩とアーサがきれいで趣のある海岸。

藪地洞穴遺跡（ジャネーガマ）2 2012年1月10日



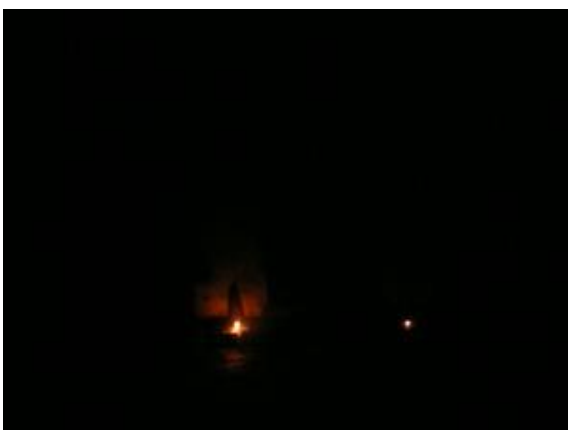
ガマのなかに入ると、さらに奥の洞穴があり、そこが霊的により重要な場だとのこと。案内者の方は、今日は調子があわないようで、自分たちで入ることになった。真っ暗だ。鍾乳石があちこちにぶらさがり、頭をぶついたり、足を踏み外しそうになったりする。たまたま小さい明りがあったので、中へと進むことができた。

奥に入ると、8畳間ぐらいの祈りの場がある。先にこられた方がつけたであろうろうそくがまだもっている。

そうであれば分らない場だ。

荘厳というか、神秘的な場だ。

暗すぎるの





で、恐縮だが、フラッシュ撮影する。

ガマから出て、すぐそばの海岸に出る。美しい。海岸線に沿って向こうを見ると与勝半島の平敷屋あたりだろう。

日曜日で祈る人が多いのか、何組かすれ違った。釣り人も多いが。

遺跡である案内板などのほか、特別な施設があるわけではないが、あちこちに、多様な形で祈りの対象になる、弥勒神とか、ノロ名とか、が書かれたものがあり、祈りの場が設営されている。王府などが管理維持するのではなく、民間の人々の祈りに支えられてきた場なのだろう。

それだけのものを感じさせる場である。

藪地洞穴遺跡（ジャネーガマ）1

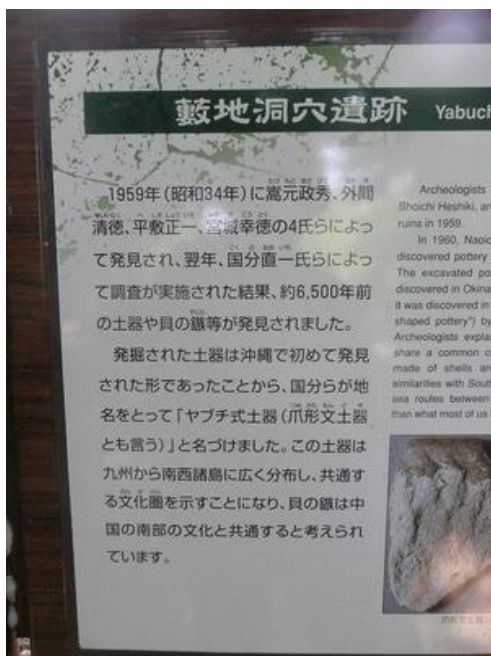
2012年1月9日

8日、近隣の女性4人とともに訪問。私は運転手役だ。何度も訪問された方の案内で。案内がなければ行けそうにもない場所だろう。

聖地として、多様な方々が祈りをささげるところだ。



また、6500年前の遺跡があり、爪形文土器（つめがたもんどき）であるヤブチ式土器が出土したところでもある。



かつては人が住んでいたらしいが、今は無人島。近隣の方が農業をしているが。なぜか、立派な橋がかかっ





が住んでいたのもうなずける。いろいろと想像がめぐる。

ている。橋を越えて、まっすぐ進んで突き当たると、島の端に来る。そこにジャーネーガマがある。入り口に遺跡の案内板が取り付けられている。

中に入ると、つい30分もしない前に、祈られた方がおられたらしく、ろうそくが数か所にともされている。霊性の強い場所だろう。感受性が強いお一人は、手がしびれる感覚をもたれたそう

だ。
深い洞穴になっている。6500年前に縄文人

喜屋武岬

2011年11月27日

23日午後、いい天気なので、二人でどこかの海岸を散歩しようということになった。このあたりで行ったことのない残されたところは、喜屋武岬だ。沖縄本島最南端だが、意外にも出かけたことがない。いつも着陸寸前の飛行機から眺めているが。

カーナビでセットして出かけたところは、まともな道もないところ。後でわかったが、ここは、最南端ではなく、最西南端の海岸だった。

戻って、道路標識に従っていくと、塔と灯台のあるところに来た。他にも数台の車が来ていた。

一枚目の写真は、そこから東方向を撮影。突き出たところが、荒崎といって本当の最南端だそう。でも、道はなさそう。2枚目の写真は、灯台



3枚目は、碑。「復帰前」に建てられたようだ。





4枚目は、最初に間違えていった最西南端の海岸。
このあたりは海岸散歩ができるようなところではない。そこで、帰りは、平和の創造の森公園で散歩してから帰る。

くんじゃん徒歩ナビ 国頭村の字ごとのガイドブック 2011年11月7日

8月に、国頭村にある「やんばる学びの森」で、見つけて、セットで購入してきた冊子だ。

浜、比地、与那、桃原、奥間、鏡の6冊がセットになっており、平成19年度20年度の「官民パートナーシップのための支援事業」というものでの製作で、国頭村と特定非営利活動法人国頭ツーリズム協会が発行企画・編集と書かれている。

このように難しい名称のシステムとは対照的に、30ページ余りの各冊子は、可愛いもので、半分はイラストで、文章もコンパクトだ。読む本と言うよりは、その地区を歩きながら見る、と言った感じだ。

表紙裏には、徒歩の「行程表」が書かれている。



例を桃原にとって紹介しよう。

三角モー→イナサクグムイ→前東リ（メーアガリ）→お宮小（オミヤグワー）→部落グワー→チカサ→屋根のシーサー→ハブよけのまじない→フクギ並木→桃原共同売店→野菜畑→ワーラ浜→赤丸崎→滑走路→VOA（VOICE OF AMERICA）→マンゴーの原木→カンファラ→金萬神社

この行程表の各項目ごとに各ページが書かれている。

聖地、カー、共同施設、森・畑・浜・川、岩、史跡、など多種にわたって、その字の歴史と現在にかかわりの深い場が丁寧に紹介されており、字の歴史と現在がよくわかる内容だ。

こんな冊子が、沖縄各地の字ごとに編集発行されるといいなあと思う。

できれば、子どもやベテラン双方を含む字民による編集だとなお良いと思う。



リュウキュウハグロトンボ？ 山

鷗の窓から 2011年9月17日

山鷗の窓から、リュウキュウハグロトンボ？を写す

今回で、やんばる学びの森の旅シリーズは
終わりだ。



山鷗 2011年9月16日

やんばる学びの森から帰路、偶然見つけた店。

東村高江で、道路から森の中をぐんぐんおりていき、「道を間違えたかな。引返すべきかな、でもせっかく来たから」と思った頃、出てくる。

まさに地産地消の食事

お店の名は、山鷗

せせらぎの上に立つ。

客は多い。

喜多郎ハウス やんばる学びの森

23 2011年9月15日

妖怪のゲゲゲの喜多郎の撮影で使った喜多郎ハウスがそのまま残されている。



ヨシノボリ やんばる学びの森22

2011年9月14日



清流の岩にいるのは、ヨシノボリ

おとなしく、人間の手にも乗る。

手への乗らせ方を教えてもらって、子どもたちが試みていた。

カワセミ オオジョロウグモのオス2匹

やんばる学びの森21 2011年9月13日

この清流で、美しいカワセミに出会う。

この連載の最初の頃に紹介したオオジョロウグモの巣





も見つけたが、メス1匹にオス2匹を発見
いずれも、カメラに収められなかったのが残念

安波ダムの奥の清流 やんばる

学びの森20 2011年9月12日

安波ダムの奥の清流は美しい。水が澄んでいる。

時々、テレビで海兵隊の訓練画面がでてくるが、こんな所での訓練も見たことがある。



カヌーツアー 上流へ やんばる学びの森19 2011年9月11日



この先は行けない奥まで到達。

休憩する
息子・孫たち

孫たちは、最初は張り切ってこぐが、途



中からは、なんだかんだといって、カヌーで寝そべって「休憩」
ウェットスーツにライフジャケットと装備はきちんとしている。
このあと、ゴーグルを借りて、水中観察などにはしゃぐ。
魚・虫発見にも興ずる

カヌーツアー 安波ダム やんばる学びの森18 2011年9月10日

10時前からは、安波ダムへのカヌーツアー

久しぶりの体験

安波ダムの横道をのぼっていく。途中ゲイトがあり、鍵を開けて入っていく。

米軍基地みたいだ、と思った。



聞けば、現在も米軍の演習場であり、時々使用されているようだ。

そこを「借用して」カヌーツアーをしているとのことだ。

右の写真は、乗船場付近



ほとんどが、初体験の人なので、カヌーが錯綜することしばしばだ

ヤンバルクイナの糞 ヤンバルマイマイ イ やんばる学びの森17

2011年9月9日



ナイトツアーで、ヤンバルクイナの糞について教えてもらった。
歩行する鳥なので、地面近くから糞を落とすので、糞は原型をとどめるとのこと。
翌朝、ヤンバルクイナが出てくるという場所にいくが出会えず。しかし、糞に出会える。ほかほかだ。きっと10分ぐらいしかたっていないのだろう。



朝の散歩で出会ったもう一つはヤンバルマイマイ
これもヤンバル固有だとのこと。
確かに、我が家周辺のものとは異なる。

ノグチゲラ やんばる学びの森16

2011年9月8日

今回の最大の出会いは、ノグチゲラとの出会いだ。
朝、ヨンナーコースを散歩していて出会った。
ドラミングの音が近くでする。
探したら見つかった。しばしすると、すぐ近くの木に来る。

連写したが、一番よく撮れたのが、この写真。

あとで、学びの森に職員に写真を見せたら、ノグチゲ



ラのメスだろうとのこと。ノグチゲラの頭の赤いものは、メスにはないそうだ。

初出会いだし、今後もないだろう。

ヤンバルクイナよりももっと絶滅の危険にさらされているそうだ。

ヨンナーコース やんばる学びの森15 2011年9月7日

高度に整備された木道中心の、森の中の散策コースで、車いすでも回れそうだ。

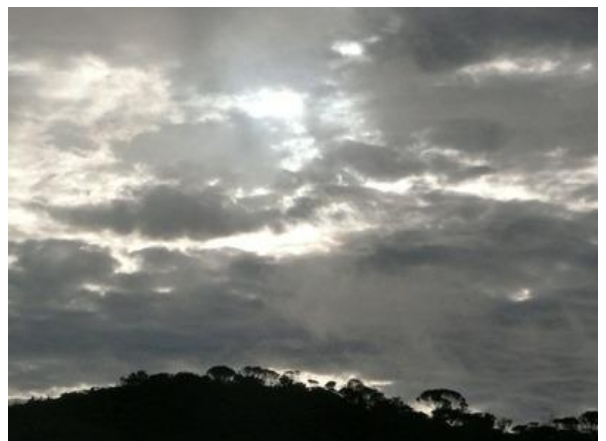
ナイトツアーは、このコースを中心に回った。写真は昼間とったもの。

うっそうとした森の中を進む。



朝焼け やんばる学びの森14 2011年9月6日

朝、散歩しながら撮影。
いつもながら、朝焼け・日の出の撮影は難しい



ザトウムシ ヤママユ やんばる学びの

森13 2011年9月5日

ナイトツアーでとった写真の続き。

葉っぱの前に、かろうじて見えるザトウムシ
こういう虫に詳しい子どもがいる。私の孫も、だんだんそうなりつつある。



写真は、ヤママユ

ほかにも、ナナフシの写真がとれたが、紹介するほどのものでない。

ハナサキガエル やんばる学び

の森12 2011年9月4日

ナイトツアーでよくぞとれた写真
幹から出た枝のうえにとまっている。





ナイト・ツアー やんばる学びの森11

2011年9月2日

8時近くになり、真っ暗になって、ナイトツアーに出発。

夜だけに写真を撮るのは難しい。

上の写真は、途中の道路の虫か鳥の糞を示すガイド。

でも、ホタルがよく見える。コノハヅクにも出会った。写真はとれず。

なぜだか楽しい。参加者の多くが子どもだったので、その雰囲気、わたしにも伝染したのだろう。

夕陽 夕焼け やんばる学 びの森10 2011年9月1日

我が家も美しいが、ここも美しい。



ヤンバルの山々 やんばる学び

の森9 2011年8月30日

宿泊・レストラン棟から西には、与那覇岳などヤンバルの山々がすぐ近くに見える。

この山々を亜熱帯林という人がいるが、そうではなく、南日本と共通するという。照葉樹林というべきかな？



ひかげへご やんばる学習の森8 2011年8月28日

葉が落ちた後の幹に、八の字のさかさまのハンコのようなものが残る。



台風で倒れたものの茎葉を料理したものをいただいた。 ふきのような感じ

※ やんばる学びの森7は、データ消滅のため、不掲載

森の中のウォーキングコース 木のこぶ やんばる学びの森6 2011年8月25日

整備されすぎていないこのコースは、自然観察に絶好だ。
3年前も、このコースを歩いた。一人だったが。
台風後で、森がやや透けている感じではある。

木には、いろんなコブがついている。説明を受けたが、ここに再録できるほどは覚えていない。病気とかではなく、他の生物が生きるためのものらしい。

写真の木は、すざまじいでき方だ。



※ やんばる学びの森3, 4, 5は、データ消滅のため、不掲載

森のガイドツアー 超専門家の案内 やんばる学びの森2 2011年8月18日



午後のガイドツアー

3年前に歩いた場ではあるが、説明を聞くと、新発見ばかり。2時間あまり説明につぐ説明。

「なるほど」「エーッ」「ほんと」といった言葉ばかりで。

子どもも大人も夢中だ。じっくりと自然のなかを「癒し」風に歩いた3年前と全く異なる世界。

私の自然知識も一歩前進

下の写真のような何気ないシダも、詳しい説明。詳し過ぎて、頭に残っていないのが残念。



我が家でもよくでてくる木がアカメガシワで、その新葉は紫外線をさえぎるために、羽毛で赤くおおっているとのこと、それが沖縄流の「紅葉」の一つのスタイルらしい。

やんばる学びの森一泊二日 やんばる学びの森1 2011年8月17日

14～15日、息子夫婦、孫3人、それに私たち二人の総勢7人で出かける。

3年前、私の一人旅で、偶然立ち寄ったところ。とても好印象だったし、最近宿泊施設を始め、整備が進んでいるとのニュースがあり、訪問となった。宿泊者は、すべて親子の家族連れだったが、3世代は私たちだけであった。ほとんどが2～4人の子どもたちで、にぎわい溢れるばかり。若い親たちの奮闘しつつ楽しみを見ることができた。

ここは、米軍演習場、安波ダム建設作業跡地につくられて、ヤンバルの山々の囲まれた絶好の場。

右写真は、新しくできた展示、レストラン、宿泊棟。





幸い雲が多く、暑さが和らいで助かった。

左の写真は、夕暮れ時に、高台から施設全体を撮影。

ここは、国頭村がNPOに委託して運営し、自然環境学習の場として整備されている。自然環境学習の専門家をそろえ、ガイドツアーを何種類も用意する。私たちは、三つも参加し、少々経費がかかったが、充実した時間を過ごした。

お陰で、撮影した写真も多く、私としては貴重なものがたくさん含ま

れている。ノグチゲラ、ヤンバルクイナの糞？ 清流、夕陽 などなど。

チービシ・ナガンヌ 2

2011年8月13日

下左写真は、本島方向。

下右写真は、島の一番高所で海拔10メートルぐらいの所から見た渡嘉敷。慶良間は、那覇から見る景観をズームアップした感じ。渡名喜もちろん見える。

宿泊すれば、那覇の夜景や星空を楽しめそう。宿泊施設もあり、そういうツアー企画もあるようだ。





イノーも広いし、ゴミがないので、きれいだ。

イノーの生き物も豊富だ。

左 息子のカメラでとったしゃこがい。ここでしゃこがいを見られるとは想定外だ。干潮時なので、水が引いている。

中右 ナマコの数は半端ではない。水に漬かっていて、手で地面を触って、何度もナマコに触れた。

イノーツアーでもあれば面白いと思うが。台風あとなので、植物はやられている感

じ。アダン、クサトベラ、モンパノキが中心。

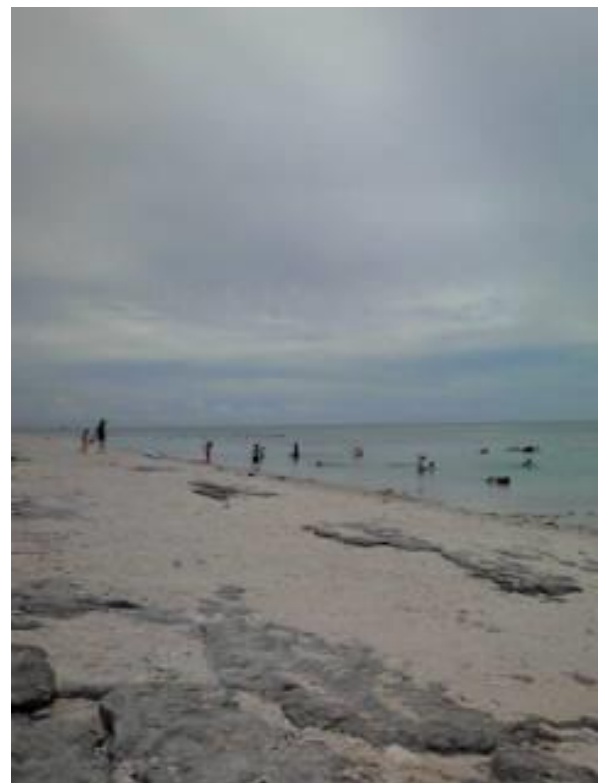
チービシ…ナガンヌ島 2011年8月12日

孫たちといく。近くの無人島だけど初訪問。有料ビーチの雰囲気。

ほとんど観光客

水はとてもきれい

魚、なまこ、カニもいっぱい





ミーフガー 久米島物語 1 4

2011年7月23日

子宝をさずかるという。島の北側の海岸にある。

久米島の海岸は、ゴミが少ない。玉城あたりの10分の1という感じだ。

しかし、ミーフガー近くだけは、ゴミが多い。落石危険のため、ゴミ集めが難しいからか。

熱帯魚の家 久米島 1 3 2011年7月22日

島の北海岸のイノーを『熱帯魚の家』と名付けている。

たしかに魚が多い。我が中山・玉城のイノーも、多い時には、これに近いほど見えることもある。

20センチぐらいのも、見かける。写真に撮るのは、なかなか難しい。



35年間は、
こうしたところ
は至るところに
あったが、随分減
ったな、と思
う。



比屋定バンタからの景観 久

米島物語 1 2 2011年7月21日

盛さんの案内で、久米島を反時計まわりでいくが、島の北側に出る。このあたりは、38年ほど前の最初の訪問の際に行ったはずが、かなり様相が異なる。

かつては人里離れた感じだと記憶しているが、今や立派な展望台がある比屋定バンタ。バンタは、がけのことだ。海からの急傾斜の丘の上にある。



上の写真は、西方向
下の写真は、東方向



この日は、多少風を強く感じたが、景観は穏やかだ。150年以前、ここを大陸と結ぶ船が行きかかった。

久米島紬の里 ユイマール館 久米島物語 1 1 2011年7月20日

久米島は15世紀に中国から養蚕技術を導入し、日本の紬緋は久米島を起点に広まったと、パンフに書かれている。現在、国の重要無形文化財に指定されているとのことだ。

最近、県内各地訪問の際、こういう場には、必ず行くことにしている。近年、各地のこうしたものが復興されてきていることはいいことだろう。ただし、ほとんどが手づくりであるので、衣服として購入するには、金額的には無理がある。だから小物購入に限られてしまう。今回は、恵美子の誕生日プレ





ゼントとして、バッグを購入した。

その久米島紬の共同作業場として、「ユイマール館」が作られている。結構大きな施設だ。その中心の方を、間接的に知ったことも、訪問のきっかけだ。

養蚕から始まって、染色・織りにいたるまでの作業を行っている。ここで学びたいということでこられている方もいた。

今後の益々の発展を期待したい。

前ページ写真は、展示資料館

左写真は、近くの真謝のチュラフクギ

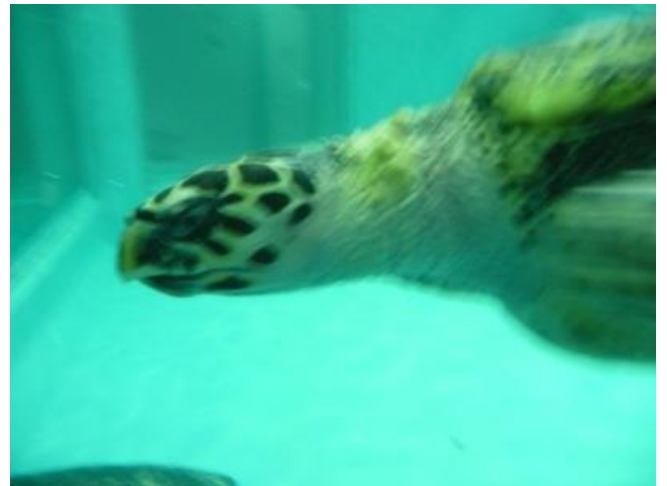
県道拡張工事のために、道路中央に残されたとのことだ。

久米島ウミガメ館 久米島物語10

2011年7月19日

畳石の近くにある館。

迫力と親しみを感じるウミガメたち





前ページ右下写真は、近くにあるシーサー。これがなんともいえない愛嬌を感じる

トンバーラ 鳥の口周辺 久米島物

語9 2011年7月18日

盛さんに、島の南の丘陵地帯で、岩や海岸の景観を楽しめるところへ連れて行ってもらった。上写真の場所は、穏やかな日は透き通る海で、海遊びもできるところらしい。海の左奥にトンバーラが見える。



左はトンバーラを拡大して撮影。名前の由来は知らない。

右の写真は、島の南端方向。その一つの岩が『鳥の口』に似ているとのことだが、うまく撮れなかった

このあたりにも、小さな集落があり、島尻という名である。沖縄本島の島尻から移住してきた人たちが開いたので、島尻という説があるそうだ。

イーフビーチ 豊石 久米島物語8 2011年7月17日

次ページ右下写真はイーフビーチから南の方向を見たもの。



翌朝、ホテルの海岸、つまりイーフビーチを歩いた。長い砂浜だ。観光地化されており、自然の風情は飛びぬけていい、というところから叱られるが、南の方向、北の方向、それぞれに趣がある。北の方向の先には、「ハテの浜」がある。



上右の写真は、奥武島、ハテの浜方向。日出方向の逆光なので、右方のハテの浜は写真ではうまく写らなかった。

午前中、卒業生の盛さんの案内で久米島の、とくに東側を中心に回った。その一つに、畳石がある（左上写真）。30数年前の最初の訪問の際は、橋もなく、どうやって渡ったかは忘れた。当時より、砂が多くて、畳石が見える面積が随分減ったとのことだ。

それにしても、火山の存在を示す石だ。他の場所でも火山岩に出会った。活火山である硫黄島は別にして、琉球列島は火山のイメージとは遠い印象だったが、今回久米島がかつては火山であったことを認識した。他に粟国島にも火山岩があるようだ。

中左の写真は、畳石の近くから久米島方向をとったもの

久米島の穏やかさを感じる

※ 久米島物語7はデータ消滅のため、不掲載



久米島アイランドホテル バーデハウス久米島 久米島物語6 2011年7月15日

昼食・博物館の後、久米島アイランドホテルにチェックイン。

地元の人が経営しているようだ。地元の人につれていってもらったので、彼女は一杯の知り合いに出会う。

地元雇用に大いに貢献しているようだ。

写真は、ホテルの中庭。右側に泊った部屋がある。

ホテルがあるイーブ地区は、観光で開けたとのことだ。

この後、奥武島にある、深層水プールのバーデハウスに行く。これまた地元の人といくと、地元割引があり、大助かり。

温泉というよりも、健康施設だ。水着になり、丸くて大きなプールで、多様なジャグジーなどで、疲れをとり、健康になるという具合だ。残念ながら写真はない。ぬるめの食塩泉といった感じ。

なかなか気分がいい。屋外プールは、観光名所の畳石の直前。美しい海面を眺めながら、いい気分。

若い観光客もいるが、私と同世代の地元の人も多い。初対面の人が紹介されて挨拶したら、「あったことがある」といわれた。私の記憶にはない。どうやら琉球放送テレビのロハス番組に私たちが出演したのをご覧になったようだ。

こんなところでも多様な出会いがある。

シニア世代になって、こういうところでゆったり暮らすのもいい。私たちが玉城で田舎暮らしをするのと同じだ。そしてユインチホテルの『湯処さしきの』に出かけるのと同じだ。

ゆったりと1時間余り楽しんだ。



久米島博物館 久米島物語5

2011年7月14日

旅行の当初予定は、再会とゆったりした滞在であった。しかし、現地の方の熱心な案内で、「久米島発見凝縮学習」となった。平均的な旅の100倍ぐらいの学習である。頭が飽和すること数回である。



まずは、佐藤文保さんの情報過剰なほどの話。次は久米島博物館。まずは館内見学。久米島の自然・歴史・文化・民俗が一挙にわかる。立派な施設だ。南城市にも欲しいと思う。

翌日午後は、ちょうど日程がうまくできた博物館による「久米島文化財巡り」。
博物館では、名誉館長で、著名な民俗研究者の上江洲均さんにお会いする。

久米島の印象 その1 穏やか 自然も人々も

景観が全体に丸っこい。なだらかな丘。高い山が二つあるが、それほどの高度はない。
米島といわれるほど、豊かな農業地を提供している。王府時代には、4000石の米の生産地。
文化人や教員をたくさん輩出していることでも知られている。警察官もたくさん出ているようだ。
しかし、人口はかつて1万数千人だったが、いまでは8000人ほどに減少。



自然保護 蛭生育環境を作る サワフジ 久米島物語4 2011年7月13日

久米島ホテル館は、当然のことながら、久米島内のあちこちに、ホテル生育環境を作り、ホテルに出会える場をたくさん作っている。

そのうちの一つ、カンジダムを案内してもらった。このダムは、半地下ダムで、農業用水を貯めている。宮古と同じスタイルのものだ。

その水質悪化を防ぐために、ホテル館の提案で、ダムに水が流れ込む場に、サワフジを植えて、いわば自然の浄化槽を作っている。そこには当然ホテルが集まる。次ページ左下写真

予算がないので、その作業をボランティアに頼っている。幸いなことに、「てもみん」を全国展開している会社が、大勢の社員ボランティアを提供しているとのことだ。

すぐ近くに有名な五枝の松がある。右下写真

久米島ホテル館 久米島物語3 2011年7月12日

佐藤文保さんのパートナー佐藤直美さんもすごい。メールのやり取りはしたが、初対面だ。文保さんとは異なる個性の持ち主だが、これまたすごい。ホテル・自然にかけるエネルギー、ホテル館に集う子どもたちと共に展開する活動をはじめ、久米島の自然にかかわる多様な組織を豊かに展開する強力なスタッフだ。

ホテル館は、建物は立派だが、内部は予算不足もあってか、まさに手づくりそのもの。そして、実物主義だ。

最近の博物館には予算措置もあってか、ジオラマに象徴されるように、「見る」人を楽しませるものが多い。



しかし、ここは、「見る」を越えている。触る、体験する、実践することに重点がある。だから、子どもたちが来館しても、単に見て学ぶレベルを越える活動が展開される。そうした活動に直美さんが深くかかわる。

私たちが訪問している時も、子どもたちが「保護」したふくろうのひなへの対応の相談依頼が小学校から舞い込んでいた。

そうした活動実績は、実に多様なところで紹介されている。小さな施設だが、やっていることは巨大だ。島を軸にしな

がらも、全沖縄、全日本、さらには世界レベルの活動展開だ。

子どもたちの視野がぐんと広がっていく。今後どう展開していくか、目が離せない。



※ 久米島物語2はデータ消滅のため、不掲載

30余年ぶりの久米島訪問 久米島ホテル館 久米島物語1 2011年7月10日

8日、9日に恵美子と久米島を訪問した。

6月初めに久々に久米島からこられた方と再会した。久米島訪問希望が膨らんだ。2, 3年前に、久米島ホテル館の館長として、30余年前の卒業生が活躍していることを知り、いつか久米島訪問をという夢が生まれたことは、このブログでも掲載した。そして、これまた30数年前の卒業生が、久米島で校長として活躍していることを新聞で知っていた。いろんな再会があるので、是非とも久米島にいきたい気分が高まった。

そんな折、新聞記事でJTAによる久米島一泊2日の約14000円パックが掲載された。そこで早速申し込み、久米島の皆さんとも連絡をとりあった。

ということで、急遽実現した久米島旅行だ。早速、久米島在の皆さんが、2日間の日程を作って下さった。

2日間で、ここまで久米島を楽しめることができるのか、というほどの充実しまくり。

これは相当な連載にするしかない。長くなることを、予め承知おき下さい。

掲載順序は、おおよそ日程順だ。

8日午前、久米島空港到着。久しぶりにプロペラ機に乗る。風情があっていい。遅いといっても30分착く。空港には、2人の方が出迎え。

空港で、レンタカーを借りる。今から思えば、案内者がおられるので、不要だったが、事前申し込みだったし、パック料金込みなので、1日借りる。驚いたのだが、随分気楽な手続き。鍵を預かって、自分で駐車場で車を拾う。返すのは、ホテル駐車場に、鍵と補充したガソリンのレシートを入れて、置いていくだけ。小さな島で、安全なのだろう。

空港から、「久米島ホテル館」に直行。





なごらん 森のハーブガーデン5

2011年5月25日

最近注目されているなごらんが樹木の二股個所に取り付けられている。



森のたまご屋さん 自然農法 森のハーブガーデン4 2011年5月24日

ここの別名は、「森のたまご屋さん」

数百羽の鶏がいる場所も訪問。卵がでかい。注文が多くて生産が追い付かない、とのこと。那覇で販売。私たちも1パック購入。

ほとんどが雌鶏だが、数羽の雄鶏。雄鶏には序列があって、餌やりの時間に遭遇したが、上位の雄鶏が下位の雄鶏を餌小屋にいれない風景を目撃。

ここは、放牧スタイルだが、餌小屋、「出産小屋」が別に建てられている。

話がどんどん進む。私がハーブに関心があったせいもあるが、自然農やいろいろなことで、共通関心事項も多い。ということで、私の本を急遽寄贈。そこで記念写真となる。



元東村職員で、東村つつじパークの展開にも深くかかわってきた、とのこと。脱サラして、現在の「タマゴ」と「ハーブ」のガーデンづくりに、打ちこんでこられたようだ。

話がえんえんと発展した。

入り口の広場では、コンサートをしたこともあるそうだ。

話している途中にも、FMおきなわの取材打ち合わせがあった。

静かなところで、1時間以上いたが、私たち以外の入場者はいなかった。しかし、訪問の価値、大いにあり。「秘密のスポット」的存在だ。

午前2時に、ここにきて作業開始だそうだ。それがすごくいいとのこと。

私も、元気づけられたのか、帰り2時間の運転はノンストップだった。こんなことは、10数年ぶりだ。

イジュの花 ひすいかずら 初対面の花 森のハーブガーデン3

2011年5月23日

途中珍しい草花にも出会う。

当主も名前が分からないものもある。(右写真) 図鑑で調べてみると、その一つは、「コモスス」というのに似ているが、正体不明。

ヒスイカズラも。(左下写真)

あちこちにイジュの花(右下写真)
聞えるのはせせらぎの音。





ハーブ ほおずき ヤンバルの森 森のハーブガーデン2

2011年5月22日

途中で、家族のかたがハーブ園の手入れをしているのに会う。



当主がいろいろと説明してくれる。

ほおずきの実をとって、「食べてみてください」とのこと。

生まれて初めて食べる。甘い。

上左右写真は、ほおずきの「草」と「実」

やまももの実も一杯。

奥にいくと、森になる。100%ヤンバルの森だ。

そこに、変わった月桃がある。葉は普通のものと同じだが、花が全然違う。

名前を教えてもらったが、覚えきれない。

ハーブが森の中にいっぱい 森のハ

ーブガーデン1

2011年5月22日

「沖縄かぐや姫」に行く途中、慶佐次のマンブローブ林から1キロぐらいの手前に、「森のハーブ





「ガーデン」というのぼりがたっていた。興味がそそられたので、帰り道に立ち寄る。

入り口で、入場料400円を払って、入場。当主から、コース案内を受ける。

ともかく広い。そして、ハーブがいっぱい。我が庭にあるものは、ほとんどここにある。しかもでっかい。我が庭にあるものの2倍以上だ。

聞くと、無農薬栽培。そして、併設している放し飼いの鶏との「循環栽培」。鶏にはハーブを食べさせ、鶏糞も使った堆肥で、ハーブを育て

ているという。無論、木々の枝葉も活用。土がとにかく良い。

これだけ立派なハーブ。販売しているわけではない。

まずは、ハーブ園の光景を写真でお見せしよう。

「東村観光ガイドマップ」に掲載された連絡先

「森のハーブガーデン」「森のたまご屋さん」 東村慶佐次 777-6 090-7586-5985

テンニンカ ハイビスカス2 沖縄かぐや姫3

2011年5月22日

テンニンカは南部では見かけない花木で、可愛い花。売店できくと、ヤンバルに自生しているとのこと。

苗を一本買った。酸性土を好むとのことだから、鉢植えにしよう。





ボタン？ ダリア？ も奇麗に咲いていた。
ハイビスカス写真の第二弾をお届けしよう。



ノボタン つつじ バラ 沖縄かぐや姫2

2011年5月21日

中右写真 印象的なのは、ノボタンのコートダジュール。



以前に私も育てたことがあるが、失敗した。

ヤンバルは酸性土。我が畑はアルカリ性土。そのころは、あまり知らなかった。

つつじが、この季節なのに、





満開状態。写真は、散策路沿いのツツジやノボタン

アジサイも奇麗に咲いていたが、撮影に失敗。ばらはピークが過ぎたとはいえ、多種がたくさん咲いている。



ハイビスカス百花繚乱 沖縄かぐや姫1

2011年5月21日

20日、久しぶりに晴れそうな気配。急に思い立って、東村まで行く。2, 3日前の新聞にバラの記事が載っていたからだ。慶佐次のマンブローブ林をさらに北上して数百メートルの所にある。初訪問だ。

正式名称は「花と竹の公園 沖縄かぐや姫」





バラ、ハイビスカス、つつじ、あじさい、ノボタン、ボタン、他たくさんの花が広大な敷地に一杯だ。

山3個分くらいの敷地といった感じ。

バラがピークを過ぎたと言うので、入場料が定価500円を100円減額。こんな安価で、美しい花々が見られるとは、まさに「穴場」だ。

まずは、ハイビスカス特集。他の花は次回記事にしよう。

オオタニワタリ、ゼンマイ、宮古総実高製黒糖・・・宮古物語9

2011年3月16日

空港への帰路、あたらず市場で、農産物を買う。

オオタニワタリの新芽を食用にする話は知っていたが、実際に食べたことはなかった。我が家の新芽を鳥がよく食べている事も気づいていた。

帰宅して料理してみた。野菜チャンプルーにした。料理が分かっていないせいか、「可もなく不可もなく」といったところ。



ゼンマイは、子どものころしばしば食卓に出たが、好きではなかった。まさか沖縄でもあるとは、思った。

これも帰宅して、おひたしにしてみた。まあまあと言うところ

上二つは農家の栽培品だが、黒糖は、宮古総合実業高校でつくったものだ。

今は、黒糖が出回るシーズン。

実業高校がんばれ。

市場風景（工事中の中央市場前の露店）・・・宮古物語8 2011年3月15日



中央市場は工事中だ。その前の歩道上で、おばさん？ おばあちゃん？ たちが売っている。

私たちは、アーサ、手作りのブタミソ類、出来立て黒糖などのみやげものを買った。

ばあちゃんたちは、仲良くやっている。商品が足りないと、隣の店のものまで一緒にして売る。

池間大橋あたり・・・宮古物語7

2011年3月14日

写真は、池間大橋。

付近の海岸は、とてもきれいになっていた。去年は、ごみやブイがいっぱい転がっていたが。





それでも、恵美子はブイを一つ探した、家まで持ち帰った。
右の写真は、大神島。2年前に訪問した島だ。

東平安名岬・・・宮古物語6

2011年3月13日

数年ぶりの訪問。すっかり整備されている。
灯台の周りに、美しい花が群生している。

下写真 岬から西西北方向を見る



次ページ上左写真 南南西方向の海 ここは、絶景で有名だが、やはり夏が美しいと思う

次ページ上右写真 もうユリが咲いていた。



この灯台は、1967年に建てられたとい
う。それまでは、大海難事故の連続だったよ
うだ。

私が最初にここを訪問したのは、1971年
だった。



女性500円男性1000円のゴルフ・・・宮古物語5

2011年3月12日

何年ぶりかのゴルフ。生涯合計でも10数回ぐらいか。



滞在先から車で5分のコース。全部パー3で9ホール。

火曜日はレディースで、通常1000円のところ、女性は500円。

貸しクラブ代は300円

これで、2回まわって、2時間楽しむ。

歩数計は6000歩をさしていた。

最初は、空振りの連続。それでも、なんとか様になって、平均して5でいけるようになる。

これなどは、宮古ならではの、である。

パイナガマあたり・・・宮古物語4

2011年3月11日

昔からにぎわっている平良の海水浴場パイナガマ。市街地や港のすぐそばだけど、きれいな海だ。

その近くに遊歩道が整備されている。最近の事だろ





う。
遊歩道の先から、平良市街地の写真をとる。写真の手前がパイナガマになる。

あちこちに自生する香り高く美しい花・・・宮古物語3 2011年3月10日

滞在先から、パイナガマ方向へ散歩していて見つけた。

雑木林風のなかの日当たりのよい道沿いに、咲き乱れている。香りがとってもいい。

しかし、名称不明



ワイドー市場・・・宮古物語2 2011年3月10日



昨年の宮古訪問の際には、あたらす市場を紹介したが（2010年2月7日記事）、今回はもう一つのファーマーズマーケットの「ワイドー市場」を紹介する。徳州会病院近くにある。

当然のことだが、地元の農産物を販売。私は珍しい、皮が紫の人参などを購入。

ファーマーズマーケットは、今や沖縄のあちこちで見られるようになった。頼もしい。



「ゆい」小川京子さん、宮古で新スタート・・・宮古物語1

2011年3月9日

7～9日、宮古に行く。このところ、年一回、ないしは2年に一回の訪問だ。

毎回、いろいろと新鮮な出会い・発見がある。写真連載にしよう。

まず、小川京子さんの「ゆい」。
宮古の中心地近くに、新スタートだ。見慣れた看板が、美しく私たちを歓迎。

移って日は浅いが、落ち着いて、のびのびしている感じ。

京子さんの作品と、芸術的作家の陶芸が並ぶ。

雰囲気は、芸術家アトリエ。玉城時代、知念時代とは趣が異なる。



「ふるさとの街」に帰ってきた感じ。

もう色々な企画が進行し、小川さんのいつもの調子で、人が沢山いきかう。

宮古に出かけたら、是非とも訪問してほしい場。

場所は、下里大通りからほんの少し南側。京子さんが育った場だ。

巨大な龍の作品が、訪問者に声をかける。

チラー小のユシドウフそば

2011年2月9日

5日のセンチメンタル・ジャーニーでの昼食は、新川にある「チラー小」にはいった。私たちが新川から西原に引っ越した後にできた店だが、もう開店して30年にはなるだろう。ずっと繁盛しっぱなしだ。

いろいろと新メニューもある。私は、ユシドウフそばを食べる。

ボリュームたっぷり。



糸満観光農園イルミネーション2

2010年12月28日

左下は、動物の形

右下は、大道芸人の演技

たくさんの人ばかり

ワザは当然うまいが、それ以上に語りがうまく、人を引き付ける。





写真は、トーチを使ったジャグリング

今年は、1月3日まで。普段は閑散としているが、この時期は人出が多い。
また、来年が楽しみ

糸満観光農園イルミネーション1

2010年12月28日

毎年の年末は、糸満観光農園のイルミネーションを見に行っている。

毎年、少しずつバージョンアップしている。

我が家から車で10分余り。

若い人がほとんどだが、私たちのような世代がいてもよいだろう。





最近完成の識名トンネル…那覇が近くなった

2010年11月26日

与儀・寄宮まで我が家から30分で行けるようになった
途中の稲嶺十字路工事も終わった



沖縄各地——ブログ記事の振り返り・再発見17 2010年10月14日

2007年末から2008年末にかけての沖縄各地にかかわる記事の振り返りだが、この期間の主な記事は、糸満観光農園のイルミネーションとヤンバルの旅についてだ。

この時期は、アメリカンスクール・イン・オキナワの校長であったため、各地に出かける機会が大変少なかった。ヤンバルの旅も2008年10月の校長退任後に出かけた。その後の、2009年からは、結構出かけている。

遠く振り返ってみると、1972年から1990年の第一次沖縄生活の折、沖縄各地に毎月1～2回以上の頻度で出かけた。ほとんどが仕事であった。結果的に本島内のすべての市町村を通算2～3回以上まわった。2004年からの第二次生活では、年に3～4回ぐらいになった。仕事ででかける回数がめっきり減ったからだ。

かといって、観光で出かけることも多くない。

沖縄の有人島で、行ったことがない島をあげてみよう。

伊是名・伊平屋 粟国 渡名喜 北大東 水納（本部も宮古も） 多良間 波照間 鳩間 黒島 新城
これらの島にも、いつか出かけるかもしれない。

今年、粟国に行くチャンスがあったが、スケジュールがかちあっていけなかった。

これらの島同様、訪れたいと思うのは、奄美の島々だ。そのチャンスを待っている。まだ行ってない徳之島・喜界島だけでなく、ほかの島も再訪したい、と思う。

また、各地の旅のほとんどが、日帰りかホテル・民宿利用なので、いつか生活感あふれる民泊でいくこともいいかもしれない。